

科目名		呼吸発声発語系の構造・機能・病態		授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕 呼吸・発声・発語系器官についてその構造および機能について学び、聴覚障害、音声障害、言語障害を理解し、言語聴覚士に必要な知識を習得する。								
〔授業全体の内容の概要〕 呼吸・発声・発語系器官の構造および機能、発声発語器官の疾患・病態。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 本科目は言語聴覚の根幹を成すものであり、したがって学習者に相応の努力を(毎回の予習と復習)が求められる。そのため授業への集中度をチェックする方を導入する。								
回数	講義内容							
1	呼吸器系の構造①							
2	呼吸器系の構造②							
3	呼吸運動							
4	呼吸機能検査							
5	呼吸器の病態・疾患							
6	喉頭の構造							
7	喉頭の構造・機能							
8	喉頭の検査							
9	喉頭の病態・疾患							
10	構音器官の構造							
11	構音器官の構造・機能・運動							
12	構音器官の検査							
13	構音器官の病態・疾患							
14	呼吸発声発語器官の障害							
15	まとめ							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名				著者名		出版社		
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版						医学書院		
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】								
試験、100点満点で評価する。								